



「未来志向」「ONE TEAM」で、JR産業に「安心」を取り戻そう！

2022年 3月 8日

日本鉄道労働組合連合会

貨物鉄産労 第2回団体交渉

直近の営業成績をもとに議論を展開

人材は会社の財産！将来に希望を持って

安心して働ける職場環境の整備を訴える！

貨物鉄産労は3月3日、2022年春季生活闘争の第2回団体交渉を行い、会社から示された営業成績をもとに協議した。

会社からは、コロナ禍による需要低迷に加え、相次ぐ雪害をはじめとした自然災害により運輸収入が1月末累計で対計画（1月改定）90.7%、対前年104.1%となり、特にコンテナについては、北海道地区の夏季干ばつに伴う作柄不良により、対計画89.1%、対前年104.6%と低迷。輸送量は前年の緊急事態宣言や津軽線が不通となった雪害等の反動もあり、全体では対計画94.2%、対前年103.2%との説明があった。

説明を受けて貨物鉄産労は、運輸収入が1月に改定した計画を達成できるか否かについて質問。会社は、「コロナ禍の影響や半導体不足に伴う自動車部品の低迷により、3月2日現在で、コンテナ・車扱合計で対計画△20億円を上回っており、1月改定計画の達成は相当厳しい状況である。」と答え、計画の達成は厳しいとの認識を示した。

続けて、「現段階では、連結での黒字達成も非常に厳しい状況である。北海道地区の記録的な大雪により鉄道輸送が機能せず、他モードに切り替えたお客様もいる。再度鉄道輸送に切り替えて頂けるよう取り組むとともに、最後まで諦めずに年度内の計画達成に向け努める」とし、「具体的には、想定される年度末需要の新規・既存を取りこぼすことなく営業活動を推進する。なお、2022年度に竣工予定である『DPL札幌レールゲート』および『東京レールゲートEAST』の計画は、順調に進んでいる」と述べ、社員一丸となって収入確保に尽力していく考えを示した。

貨物鉄産労は、会社の厳しい経営状況への理解と、安全安定輸送に引き続き努めていく決意を示す一方、通期見通し計画（単体・1月改定）で黒字を見込んでいることを踏まえ、これまでの組合員一人ひとりの努力を適切に評価するよう主張。「人材は会社の財産である。会社がどんなに良い将来展望を描いても、人材がいなければ実現できない。労使が一体となり、コロナ禍という窮地を打破していくためには、将来に希望を持って安心して働ける職場環境の整備が必要である。次回交渉では、要求に対する会社の考えが示されるが、組合員の士気が高まるような誠意ある回答を求める」と訴えた。